
草案的ネタ帳

物乞

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

草案的ネタ帳

【著者名】

ZZード

29637Y

【作者名】 物乞

【あらすじ】

吾輩はネタ帳である。使われる予定はまだない。

戦闘1　序盤想定　骨子を組み立てている段階について閲覧注意　（前書き）

敵は凄腕の元魔術師。 偽名で活動中なのでまだ無名。
主人公はそこそこな冒険者。 名の売れ具合もそこそこ。

戦闘1 序盤想定。骨子を組み立てている段階について閲覧注意。

第一撃、右からくる剣をそらす。

「つ……」

威力が大きすぎて体制を崩す。……双剣、剣を片手で打ち付けるこの武器なら難なく逸らせると思つていただけに、この威力には驚愕。その驚きを突き左から第一撃。一撃目を受けて解つた、こいつの攻撃を武器で止めようと思つてはいけない。正直、ここまでとは思わなかつた。確かに相手は魔術師。しかも世に珍しい肉体派だ。しかし、相手が魔術師であるからこそ、剣筋は稚拙なものであろうと思っていた。事実、相手の剣筋はお世辞にもいいとは言えない。鍛錬を積めばいい筋になるのだろうが今この場においては3流もいいところだ。だが、その稚拙さを補つて有り余る程の威力と速さ。この瞬間、自分は相手の得物が双剣であることに感謝した。これが両手を使って扱う武器だったのなら、一撃目で自分は自らの武器」と両断されていたであろう。しかし、相手は双剣。一撃一撃が常人が繰り出す大剣の威力であるとも、それを受け流すことは可能。先ほどは想定より大きい威力だったので不覚にも大勢を崩したがこれからそうはいかない。

一撃、一撃。そう続けて剣を合わし続けて早50。相手が口を開く。

「ほう、なかなか。私もこの戦い方を始めて久しいがここまで耐える者はそうそう居ぬ。たとえ自身の得物と体を強化していても、だ」「その賞賛、有りがたく受け取つておきます。けれども、勝負はこれからですよ」

剣戟の再開。またもや一撃一撃。先ほどの繰り返し。だが、先程とは違うこともある。稚拙さ故か、所々隙がある。それに合わせ
「燃えろ!」

「クツ」

剣を媒介とし簡易的な炎の魔術を発動。致命傷、とまではいかないだろうがそれなりの傷を負わせるたと確信。

だが

「ふん、この程度！ 水よ来たれ！」

本日一度目の驚愕。水で炎を消したところまではいい、曲りなりにも相手は魔術師。それぐらいの事できて当然である。だが、その後、奴は何をした。いや、理解はできる、だがそれは生半可なことではない。よもや、一工程、一言だけで消炎と自信の治療。それを済ませるとは。

「成程、肉体派というからにはそのような魔術が得意ではないと思つていましたが、逆であつたわけですか。自身が習得できる力テゴリーを習得し尽くしたからこそ、剣の道に進んだというわけですか。」

「応とも。剣の道を歩み始めてまだ短いのでな。剣筋の拙さは勘弁してくれ」

これは計算外であつた。まさか相手がこのような化け物とは。

しかし、一つ解せないことがある。

「なぜ貴方程の人があの魔道に？ 魔道を極めるだとか新たなるカテーテゴリーを作るだとか、そういうことをしないのですか？」

「なに、簡単なことよ。私にはその手の事が向かんのだ。想像力だとが欠如していくな。新たな境地を切り開くとか、得意なカテーテゴリー外の魔術を極めるだとか、そういうことが難しいのだよ。魔道に未練がなかつたわけではないが、まあ諦めどころといったやつでな」

それはどんなに難しいことだろう。今まで人生を賭して進んできた道、それを捨て、反対の道を進み始めたのだ。正直に言わせてもらいうのならばこの時点で自分は負けを悟つた。もちろん実力でも負けているが、精神的なものが一番大きい。今の自分には、この人が山に見える。

「私の負けです」

そういうつて自分は剣を落とした。闘つまでもない。闘つ前からすでに勝敗は決していたのだ。

「ふむ、ということは私の勝利か……。しかし、後味が悪いな。どうだね、勝敗関係なしに、一つ練習試合というものは」「どうやら彼は、闘い足りないらしい。だが、その提案に異存はない。勝負は自分の負けだが、まだどの程度まで戦えるのか把握していない。」

「受けて立ちます」

結果、その日は彼と練習試合をし続け、宿に彼と一緒にそろって戻るこには、自分はひとりで歩くことさえ困難になっていた。対して、彼はそこそこ疲労の色を見せたものの、自分の肩を担いで歩いてきたそうだ。その強さには感服する。

戦闘1 序盤想定

骨子を組み立ててこの段階につきを閲覧注意

(後書き)

矛盾は気にしたら負け

仲間との会話 骨子段階 (前書き)

彼の名前は未定です。
主人公の名前も未定です。

チープ、あまりにも安い。安すぎて反吐が出そうだ。その信念、理想。彼が吐き出す言葉、それを構成する要素。どれを取つても安い。

だが、それを嘲笑うことなどできまい。それをする者こそ我が嘲笑的となるだろう。

確かに、彼の言葉はありふれた言葉だ。その理想だつて自身から出たものではないだろう。しかし、どうか考えてほしい、そんな安っぽい言葉。そんな言葉を、自分は一度も吐いたことはないのか、と。それは否だ、断じて否だ。誰もが始めはそのようなもの。始めるから確固たる信念、理想がある者など、そのような者はよほど理由があるかよほどの例外だ。前者にしても後者にしても、どちらも希少種。珍しいからこそ、彼のような安っぽさが定義されうる。そして、その安っぽさは恥じ入るものではない。その先に自らの信念を見つけられるか、それが重要なのだから。

「その若さ、羨ましいよ」

素直な感想を口にする。

「ハツ、そんなこと言われたつて嬉しくないね！俺は早く大人になりたいんだ！」

どうやら皮肉と受け取られたようだ。

「はは、そうか。でもね、大人つていうものはね、なるものじゃないんだ。気づかぬうちになつていいのだよ。そして、大人になつたと自覚したとき“子供の頃に、こうしておけばよかつた”と思うものなんだ。だから、君は子供の内にできることをやるべきなんだ。生き急ぐ必要は無い」

ありきたりな言葉。しかし、ありきたりであるからこそ、人に伝わる多くの事がある。無理いことを言おうとせず、いうこつた言葉で語るのが、自分にとつても相手にとつても結果的に良いことな

のだ。

「ふん、どいつもこいつも、皆揃つて同じことを言いやがる」

「……何故皆が揃つて同じことを言うのか、君になら解るだろ？..」

「……解るや。解るからこそ嫌なんだ。皆俺の事を思つていつく

れている。けれど、俺はそれを聞けるほど素直じやない。それに、

俺にはそんな暇はない」

雰囲気が変わる。今までこの場に漂つていたコミカルな雰囲気。それに、彼が暗い陰を落とす。

「俺にはな、立ち止まつている時間なんてない。一刻も早く、やりたいこと、やらなきやいけないことがあるんだ」

彼の口調に自分は何一つ返せない。これは彼の根幹にかかる問題だ。出会つて間もない自分が関わつていい問題ではない。これ以上は悪化する一方だろ？

「解つた、今日のところはこれまでにしておけ。」

「ならつ……」

「だが、君の単独行動を認めるわけにはいかない。ここ一帯は危険だからな。……まあ、その代わりといつてはなんだが、少し早めにこの町を発つ。」

これが最大限の譲歩だ。

「どのぐらい早めに？」

「それは、他の者と相談して決める。あと、今日はもう遅い。寝るがいい。」

「……了解」

それじゃあおやすみ、と言つて彼と別れる。

それでは、自分も部屋に戻ることにじよつ。

そして、部屋に戻り考え方すること10分。全く眠る感じもなくずつと考え続けている。何をと聞かれれば、彼のことをだ。安っぽいと思つた理想、思想。それらが安っぽいのは自身の思想でないからだ、と思つていたが、その実ただ単に若さと経験不足故だつたとは、予想外であった。

「少し穿った見方をしそぎたか。最近、そういうのばかり相手してたから自然と自分もそうなつてしまつた……。こんなざまではとてもリーダーなぞ、名乗れん」

それも当然だ、と内心では思つてゐる。だが、そんなことは言つていられない。彼と同じように自分にもまた、急いでいることがあるからだ。

「このまま考へていても意味がない、か」
そう判断を下し、寝よつとする。しかし、そう簡単に寝れるわけもなく

「眠れ」

自身に軽い眠りの魔術をかけ、そのまま夢の世界へと旅立つ。間もなく、日付が変わる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9637y/>

草案的ネタ帳

2011年11月29日22時54分発行